

ルースキー島大橋の建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|--|
| プロジェクトの内容 | パトロクル湾のナジモフ半島からボスフォル・ヴォストーチヌイ海峡を経由し、ルースキー島のノヴォシリスキー岬を結ぶ連絡橋を建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2012年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 34,005.9（11.3億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 連邦政府（ロシア連邦道路庁アジア・太平洋地域の国際協力センターとしてのウラジオストクの道路建設機関） 建設会社はOAO「MOST」（モスクワ）（OAO "УСК МОСТ"） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2008年9月着工済、2011年完成、2012年3月末開通予定） 建設期間は43ヵ月 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | ロシア連邦道路庁アジア・太平洋地域の国際協力センターとしてのウラジオストクの道路建設機関（運輸省傘下の組織） |
| 住所 | 690000 Приморский край, г. Владивосток, Океанский проспект, д. 17 |
| Tel/Fax | Tel : (4232) 607-141 Fax : (4232) 607-140 |
| e-mail | info@dsvl.ru |
| 追加情報 | |
| <p>○2012年にルースキー島で開催予定のAPECサミットに向けたインフラ整備の中で、象徴となる事業</p> <p>○橋の形式 斜張橋 60 + 72 + 3×84 + 1104 + 3×84 + 72 + 60m。総距離3,100m。橋の全長1,885.53m。最大支間長（2本の主塔間の距離）1,104m。橋の幅29.5m。橋の幅（通行部分）23.8m。4車線。橋桁の海面からの高さ70m</p> <p>○2011年4月現在、主塔の高さが180mに達する。主塔M7の高さは184.9m、M6の高さは180.4m。コンクリート（セメント）2万7,000m³超を注入。同時並行で海上部の橋桁となる鉄製パネルの据え付け工事が進む。</p> | |
| コメント | |
| ○2012年にルースキー島で開催予定のAPECサミットに向けたインフラ整備の中で、象徴となる事業。 | |

アムール湾大橋を含む道路建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | デフィリーズ半島～セダンカ間の橋を含むノーヴィ村～デフィリーズ半島～セダンカ～ペールヴァヤ・レーチカ～パトロクル湾を結ぶ道路を建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 29,994.96（10.0億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 建設会社はノーヴィ村～デフィリーズ半島間はOAO「プリムアフトドル」（ウラジオストク）、デフィリーズ半島～セダンカを結ぶ橋を含むデフィリーズ半島～パトロクル湾間はZAO「太平洋橋梁建設会社」 |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2009年9月着工済、2011年12月末開通予定） 建設期間は43ヵ月 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | 沿海地方行政府 |
| 追加情報 | |
| <p>○2012年にルースキー島で開催予定のAPECサミットに向けたインフラ整備の中で、象徴となる事業</p> <p>○ウラジオストク市中心部と空港を結ぶ最短ルート</p> <p>○APECサミット時には要人の車列が通過する。</p> <p>○ウラジオストク市中心部から空港まで車で1時間近くかかっているが、橋ができると、約20分でいけるようになる。</p> <p>○全長41.765km（ノーヴィ村～デフィリーズ半島間14.32km、デフィリーズ半島～セダンカ間4.985km、セダンカ～23km地点間3.23km、23km地点～パトロクル湾間19.23km）</p> <p>○橋の長さ5,311.36m（ノーヴィ村～デフィリーズ半島間342.4m、デフィリーズ半島～セダンカ間4,472.15m、セダンカ～23km地点間376.81m、23km地点～パトロクル湾間120m）</p> | |
| コメント | |
| | |

ザラトイログ湾横断橋の建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|---|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストク市中心部と対岸のチュルキンを結ぶ連絡橋を建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 19,872（6.6億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 建設会社はZAO「太平洋橋梁建設会社」（ウスリースク） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2008年7月着工済、2011年12月完成、2012年5月開通予定） 建設期間は42ヵ月 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | 沿海地方行政府 |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○APECサミットに向けたインフラ整備計画の中で、規模の大きいプロジェクトの1つ</p> <p>○ウラジオストク市中心部と対岸のチュルキンとの間は現在、車で30分近くかかっているが、橋ができると数分間でいけるようになる。</p> <p>○橋の形式 斜張橋 49.98+2×90+100+737+100+2×90+41.94m。総距離2,100m 橋の全長1,388.09m。最大支間長（2本の主塔間の距離）737m。4車線。橋桁の海面からの高さ64.25m。</p> | |
| コメント | |
| | |

極東連邦大学の建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|---|
| プロジェクトの内容 | ルースキー島に極東連邦大学の施設を建設する。 2012年9月のAPEC首脳会合の会場施設として利用する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 57,183.84（19.1億ドル）（全額連邦予算） |
| うち今後必要な投資額 （100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 連邦政府 建設会社はCrocus International（モスクワ） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2009年7月着工済、2011年12月完成予定） |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | 沿海地方行政府 |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○APECサミットに向けたインフラ整備計画の中で、規模の大きいプロジェクトの1つ</p> <p>○施設の概要以下のとおり</p> <p>大学施設の総面積（延べ床面積）は65万m²（学生数1万500人）</p> <p>科学棟（5.56万m²）</p> <p>金融・経済棟（4.75万m²）</p> <p>共通学生センター（5.12万m²）</p> <p>医療・科学研究センター棟（6.01万m²）</p> <p>ホテル（3つ星）（客室数5,500室）</p> <p>防火施設（消防署）の建設（消防車の台数6台）（1.69万m²）</p> <p>ルースキー島内の道路の整備（21.5km）</p> <p>水道網の整備（1万1,200m³/日）</p> <p>浄水設備をもつ下水道網の整備（8,500/1万m³/日）</p> <p>浄水設備をもつ豪雨対策用下水道網の整備（19.6km）</p> <p>ゴミ処分場（ゴミ捨て場）の建設（6ha）</p> <p>一般ゴミ処理・再利用施設の建設（8,000t/年）</p> <p>脱塩装置を利用した自動貯水施設の建設（1万m³/日）</p> <p>極東連邦大学施設建設のために立ち退きを余儀なくされた住民向け低層住居の建設（各1,250m²）</p> <p>○Crocus Internationalは1989年設立の建設会社。アラス・アガラロフ社長。モスクワとその周辺で商業施設や高級マンション、レクリエーション施設等を建設。2008年の売上高は8億7,000万ドル</p> | |
| コメント | |
| | |

ウラジオストク空港国際旅客ターミナルの建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|---|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストク空港に新国際旅客ターミナルを建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 14,285.12（4.76億ドル）（うち連邦10,285、予算外4,000） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 連邦政府（ロシア連邦運輸省連邦航空輸送庁） 建設会社はHOCHTIEF（ドイツ）と有限会社「エンジトランストロイ」（Engtransstroï）（モスクワ） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2009年着工済、2011年完成予定） |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | 連邦政府（ロシア連邦運輸省連邦航空輸送庁） |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○350万人／年が利用可能な（ピーク時で1時間あたり1,500人の受け入れ可能）4階建て旅客ターミナル（総面積6万m²）を建設する。</p> <p>○2015年時点での空港利用客数は210万人／年と想定</p> <p>○2012年のAPECサミット開催に合わせ、アジア・太平洋地域のハブ空港を目指す。</p> | |
| コメント | |
| | |

ウラジオストクへのガスパイプラインの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|------------------------------------|
| プロジェクトの内容 | サハリン～ハバロフスク～ウラジオストク・ガスパイプラインを建設する。 |
| 実施期間 | 2009～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 248,464.18（82.8億ドル）（全額ガスプロム負担） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | ガスプロム（ガスプロム・インヴェスト・ヴォストーク） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2009年7月着工済、2011年10月完成予定） |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | ガスプロム |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○サハリン沖からハバロフスクまで通る既存のパイプラインをウラジオストクまで延伸し、沿海地方のガス化を図る。</p> <p>○パイプラインの長さは1,350km</p> <p>○ウラジオストクの第1熱併給発電所および第2熱併給発電所、ボイラー「セヴェルナヤ」（ウラジオストク市）の発電燃料をガスに転換するとともに、2012年9月のAPECサミット時までにはルースキー島にパイプラインを敷設し、サミット時に使用する発電燃料をガスとする。</p> <p>○パイプラインの輸送能力は完成時に275億m^3。その後、沿線のガス化やガス田の開発状況をみつつ、輸送能力を拡大する。</p> | |
| コメント | |
| | |

ルースキー島へのガスパイプラインの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストク第2熱併給発電所への支線をもつガス分配ステーション（本線）からルースキー島へのガスパイプラインを建設する。 |
| 実施期間 | 2009～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 5,000（1.7億ドル）（全額ガспロム負担） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | ガспロム（ガспロム・インヴェスト・ヴォストーク） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2011年第3四半期完成予定） |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | ガспロム |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○ウラジオストク本土とルースキー島を結ぶ全長34.9kmのガスパイプラインを建設する。</p> <p>○パイプラインは、ウラジオストク側のガス分配ステーション（本線）からボスフォル・ヴォストーチヌイ海峡を經由し、ルースキー島のミニ熱併給発電所「セヴェルナヤ」、同「ツェントラリナヤ」などを結び、同「コムナリナヤ地区」と同「オケアナリウム（海洋水族館）」に至る。</p> <p>○大陸とルースキー島間（ボスフォル・ヴォストーチヌイ岬）は海底下にトンネルを掘る方式で敷設する。</p> | |
| コメント | |
| | |

自動車組み立て生産

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストクに自動車組み立て生産工場を建設する。 |
| 実施期間 | 2009～2010年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 1,800（6,000万ドル）（全額Sollers負担） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | Sollers（子会社・有限会社「Sollers-Far East」） |
| プロジェクトの進捗状況 | 2009年12月29日に生産開始 2010年の販売台数は1万2,526台 |
| 政府/地方自治体による支援 | 連邦政府によるロシア欧州部へ輸送する際の鉄道輸送料金無料化（2011年4月現在、継続中） |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | Sollers（子会社・有限会社「Sollers-Far East」） |
| 追加情報 | |
| <p>○従業員：第1段階（1万台）：約700人（生産ライン450人）、第2段階（4万台）：2,000～3,000人</p> <p>○2010年の販売台数は1万2,526台。生産車種はSsangYong（すべて四輪駆動車）Rexton、Kyron、Actyon、Actyon Sports、NEW Actyon（2010年12月現在）</p> <p>○2011年の生産計画は2万5,208台</p> <p>○2011年3月1日、トヨタはSollers-Bussan社とランドクルーザープラドの現地組立プロジェクトで基本合意したと発表した。2012年春頃に組立を開始する。規模は月1,000台程度を予定</p> | |
| コメント | |
| | |

風力発電の建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--------------------------------------|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストクのポポフ島（ルースキー島のとなり）に風力発電所を建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2012年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 4,160（1.39億ドル）（全額事業者負担） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | OAO「ルスギドロ」（RusHydro）（モスクワ） |
| プロジェクトの進捗状況 | 2010年末現在、プロペラを設置し試験段階 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | OAO「ルスギドロ」（RusHydro）（モスクワ） |
| 住所 | |
| Tel/Fax | |
| e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○プーチン首相が強く推進するプロジェクトの1つ</p> <p>○ウラジオストクのポポフ島（ルースキー島のとなり）に出力36MWの風力発電所を建設する。</p> <p>○ポポフ島に風力発電のプロペラ18基を設置する。</p> <p>○ポポフ島～ルースキー島間にケーブルを建設し、APECサミット会場とその周辺に電力を供給する。</p> <p>○ポポフ島～ルースキー島の変電所「風力発電所-2」間に全長8.2km（うち海中1.6km、空中0.9km、スタルカ海峡経由）の送電線を建設する。</p> | |
| コメント | |
| | |

東シベリア太平洋石油パイプラインの第2フェーズの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | 東シベリア太平洋石油パイプラインの未着工区間、スコヴォロヂノ～ハバロフスク～コジミノ（ナホトカ）間2,045kmに石油パイプラインを建設する。 |
| 実施期間 | 2010～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 150億ドル（全額事業者負担） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | トランスネフチ |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中（2010年1月着工、2013年完成、2014年稼働開始予定） 2014年の稼働開始を目指しているが、1年ほど早まり、2013年になる可能性もある。 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | トランスネフチ |
| 追加情報 | |
| <p>○2010年12月までに全長2,045kmのうち、約半分でパイプラインの敷設を終えた。</p> <p>○ESPO-2は2つの段階からなる。第1ステップ（Step-1）は、スコヴォロヂノ・コジミノ間に輸送能力3,000万t/年のパイプラインを建設し、タイシエト・スコヴォロヂノ間のパイプラインの輸送能力を3,000万t/年から5,000万t/年に拡大する。2014年の稼働開始を目指しているが、1年ほど早まり、2013年になる可能性もある。第2ステップ（Step-2）は、タイシエト・スコヴォロヂノ間の輸送能力を8,000万t/年、スコヴォロヂノ・コジミノ間の輸送能力を5,000万t/年にそれぞれ拡大し、通油量8,000万tのうち、太平洋沿岸に5,000万t、中国に3,000万tを供給する。着工時期については、第1ステップ完了後としているだけで、具体的には決定されていない。</p> <p>○パイプラインの口径は、スコヴォロヂノ・コジミノ間で異なる。スコヴォロヂノからハバロフスクまでが1,067mm、ハバロフスクからコジミノまでが1,020mm</p> | |
| コメント | |
| | |

ハイテク・テクノパーク構想

| プロジェクトの概要 | |
|---|---|
| プロジェクトの内容 | 沿海地方にナノテクノロジー、バイオテクノロジー、IT、電子機器・計測機器などのハイテク分野を対象としたテクノパークを創設する。 |
| 実施期間 | 2009～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 2,800（9,333万ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府、ロシア科学アカデミー極東支部、沿海地方の大学教育機関・団体 |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> <p>○設計・建設会社等を決める入札は実施されておらず、どこの会社が請け負うかは決まっていない。</p> | |
| コメント | |
| <p>○ロスナテクノロジー（チュバイス総裁）とダリキン知事の強いイニシアティブあり</p> <p>○2011年に入り急浮上。マスコミ等で頻繁に報じられる。</p> | |

ポシェト港の開発

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ポシェト港の港湾設備の更新、石炭積替設備アクセス運河の建設 運河：長さ4,500m、幅130m～180m、水深14m 石油積替設備：鉄道輸送から海上輸送への積替施設 |
| 実施期間 | 2010～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 運河：未定 石油積替設備：360（1,200万ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> <p>○1993年に設立された「ポシェト商業港株式会社」が運営。機械や食料品を取り扱ってきたが、2004年に鉄鋼グループ「メチェル」がオーナーとなって以降、石炭専用港に転換</p> <p>○2009年の取扱量は335.5万t。全量が南クズバス産およびネリユングリ産の石炭</p> <p>○港付近の地形は複雑で、開発に制限がある。</p> <p>○岸壁（バース）の数は3つ、長さは450m、敷地面積は2.5万m²、上屋面積は3,000m²である。</p> <p>○水深は最大9.5mで、最大2万5,000DWTの貨物船が接岸可能である。</p> <p>○2010年5月、独ThyssenKrupp Fordertechnik GmnHから積み換え設備を購入することを決め、オランダのING Bank N.Vより3,000万ドルのクレジットラインを獲得した。</p> <p>○処理能力500万t/年の石炭バースを建設する計画がある。</p> | |
| コメント | |
| <p>○石炭バースの拡張計画は環境問題に直面し進んでいない。周辺の陸上部は保養地、海洋にはロシアで唯一の海洋自然保護区があり、環境問題をクリアするのは難しい。環境保護団体が本件に強く反対していることもマイナス</p> <p>○港湾設備の更新は着々と進めており、日本企業の設備を売り込む可能性あり</p> <p>○石油積替設備を購入・建設する動きはない（環境問題で建設できないと史料）。</p> | |

ヴォストーチヌイ港コンテナターミナルの改修および新規建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|--|
| プロジェクトの内容 | ヴォストーチヌイ港コンテナターミナルの積み替え設備を更新することにより、2013年までにコンテナ取扱量を220万TEU／年に引き上げる。 |
| 実施期間 | 2010～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 6,400（2.1億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | VSC/VICS |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> <p>○既存のコンテナターミナルはVSC/VICS（Global Ports Investment Ltd（N-Trans系列）75%、UAEのDP World25%出資の合弁会社）が所有する。</p> <p>○2009年の取扱量は世界的な景気悪化の影響で15万9,751TEUと、前年比60%減少した（2007年は37万992TEU、2008年は40万724TEU）。うち輸入は54%、輸出は41%、内航は5%、トランジットは0%。発着国別では、韓国71%、中国26%、日本3%</p> <p>○取扱量減少の理由は①取扱コンテナの60%を占めていたFESCOのコンテナの大半が、ウラジオストク商業港へ移ってしまったこと、②コンテナの3割を占めていた自動車部品輸送がリーマン・ショック後ほぼなくなってしまったことの2点</p> | |
| コメント | |
| <p>○VSC/VICSは隣接する土地を所有する企業（旧VSC）を買収し拡張したばかりであり、既存の施設で十分</p> <p>○これとは別に、ヴォストーチヌイ湾の出口付近に新規のコンテナターミナルを建設する計画があるが、あくまでも計画であり、VSC/VICSの施設が十分である中で、具体的な動きはない。</p> | |

ヴォストーチヌイ港穀物ターミナルの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ロシア産および中国東北産の小麦と大麦の保管および積み出し施設の建設 取扱能力：350万 t / 年（最大）（第1段階は150万 t / 年） 場所：ヴォストーチヌイ港10番バース（多目的バースと化学肥料貯蔵施設の間にある遊休地） 一時保管施設：30万 t（最大） サイロ数：19基（第1段階4基、ドイツ製全天候型円筒形サイロを導入予定） |
| 実施期間 | 2010年末の着工予定だったが未着工 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 2,800（9,333万ドル） |
| 推進会社・団体（事業主体） | ヴォストーチナ・バルク・ターミナル（有限会社トランスヒムエクスポートの子会社）（同社は穀物ターミナルの建設・運営を目的に設立。会社としての実態はないが、完成後、同社がターミナルの運営を行う予定） |
| プロジェクトの進捗状況 | 連邦環境・技術・原子力監督局（ロステフナゾール）の環境影響審査中（2011年3月現在） |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | ピョートル・ヴォロヴチェンコ（Petr N. VOROBCHENKO） Deputy manager of production |
| 住所 | 1, Vnutriportovaya St., Vrangel-1 Primorsky Region 692907 |
| Tel/Fax | (4236) 660-385 |
| e-mail | vut@vpnet.ru |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> <p>○建設は4つの段階からなる。第1段階はサイロ4基と積み出し設備（鉄道→サイロ→港）を建設する。建設後、穀物の取り扱いを開始する。需要を見ながら段階的に拡張する。最終的にサイロ19基を建設し、最大350万 t / 年を輸出する。第4段階は10番バースから突き出す形で積み替え施設を建設する。</p> <p>○10番バースは現在、化学肥料の輸出ターミナルとして使われており、トランスヒムエクスポートの子会社、有限会社「ヴォストーチナ・ウラリスキー・ターミナル」が100万 t 前後 / 年の肥料を中国やインドなどに輸出している。取扱能力は200万 t / 年。日本向けには2,000～3,000 t / 年を輸出している。</p> <p>○ターミナルは水深11.5m、バース全長218m。3万 t 級船舶が寄港可能で1度に2隻への積み込み可能である。</p> | |
| コメント | |
| <p>○沿海地方諸港で計画されている穀物ターミナル建設プロジェクトのうち、着工に向けた作業が最も進んでいたが、ロシア政府による穀物禁輸により、作業は中断</p> <p>○「アジアでのロシア産穀物の需要はそれほど多くない」とロシア側の描く300万～400万 t という数字を疑問視する声もあり</p> | |

ウスリースク～ポグラニーチヌイ国境間の自動車道路

| プロジェクトの概要 | |
|---|---|
| プロジェクトの内容 | ウスリースク～ポグラニーチヌイ国境間、総延長113kmの自動車道路の建設 全長：113km（うち橋梁区間：1,428.9m） |
| 実施期間 | 2008～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 4,870.3（1.6億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | 4,870.3（1.6億ドル）（うち連邦3,798.5、地方1,071.8） 2008： 423.4（連邦236.4、地方187） 2009： 501.2（連邦230.8、地方270.4） 2010： 473.3（連邦331.3、地方142） 2011～2013： 3,472.4（連邦3,000.0、地方472.4） |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 着工済 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つ</p> <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> | |
| コメント | |
| ○着工済みであり、日本企業が関与する可能性はない | |

沿海地方

運輸（道路）

テルネイ～マーラヤ・ケマ間の自動車道路

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | テルネイ～マーラヤ・ケマ間、総延長114kmの自動車道路および長さ1543mの橋梁、陸橋の建設 うち、「2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラム」の枠内は63km、橋梁・陸橋は864m 沿海地方北部と中南部を結ぶ重要な輸送インフラであり、北部の発展と天然資源の開発促進の役割を担う。 全長：63km（うち橋梁区間：864m） |
| 実施期間 | 2011～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 3,970.0（1.3億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | 3,970.0（1.3億ドル）（うち連邦2,800.0、地方1,170.0） 2008： 2009： 2010： 2011～2013： 3,970.0（連邦2,800.0、地方1,170.0） |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 着工済 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つ</p> <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> | |
| コメント | |
| ○着工済みであり、日本企業が関与する可能性はない | |

ラズドリノエ～ハサン間の自動車道路

| プロジェクトの概要 | |
|---|---|
| プロジェクトの内容 | ラズドリノエ～ハサン間、総延長217kmの自動車道路の建設 対象区間：25.58km（うち橋梁区間：371.9m） |
| 実施期間 | 2008～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 4,430.0（1.5億ドル）（優先プログラム） ／5,001.3（1.7億ドル）（2013年） |
| うち今後必要な投資額 （100万ルーブル） | 5,001.3（1.7億ドル）（うち連邦3,501.3、地方1,500.0） 2008： 697.6（連邦300.0、地方397.6） 2009： 1,176.4（連邦801.3、地方375.1） 2010： 1,768.7（連邦1,400.0、地方368.7） 2011～2013： 1,358.6（連邦1,000.0、地方358.6） |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 着工済 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <p>○2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つ</p> <p>○沿海地方行政政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> | |
| コメント | |
| ○着工済みであり、日本企業が関与する可能性はない | |

ルドナヤプリスタニ～テルネイ間の自動車道路

| プロジェクトの概要 | |
|--|---|
| プロジェクトの内容 | ルドナヤプリスタニ～テルネイ間、総延長138kmの自動車道路の建設と改修、および長さ703mの橋梁、陸橋の建設 うち、「2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラム」の枠内で整備されるのは、35.7km、橋梁・陸橋は386m 沿海地方の最北部と中南部を繋ぐ道路であり、北部の資源開発を可能とする。 |
| 実施期間 | 2011～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 4,331.0（1.4億ドル） |
| うち今後必要な投資額 （100万ルーブル） | 4,331.0（うち連邦3,067.0、地方1,264.0） 2008： 2009： 2010： 2011～2013： 4,331.0（連邦3,067.0、地方1,264.0） |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <input type="checkbox"/> 2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つ <input type="checkbox"/> 沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |
| コメント | |
| <input type="checkbox"/> 日本企業が関与する可能性はない | |

沿海地方カジノゾーンの建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|---|
| プロジェクトの内容 | 沿海地方に総面積約620万㎡のカジノゾーン「プリモーリエ」を建設し、アミューズメント、ホテル、リクリエーション、スポーツセンター、医療・健康増進センター、スパ、外食産業の振興を図り、50万人／年の観光客を誘致する。 |
| 実施期間 | 2009～2013年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 36,000.0（12億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 2010年7月、カジノゾーンの開発会社に2002年設立の沿海地方行政府100%の公営会社「ナシ・ドム・プリモーリエ」を選定 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | 公開型株式会社「ナシ・ドム・プリモーリエ」 ОАО «Наш дом Приморье» |
| 住所 | スヴェトランスカヤ通り 3 |
| Tel/Fax | (4232) 60-72-10、(4332) 60-72-12 |
| e-mail | ndp_ipoteka@mail.ru |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ</p> <p>○賭博規制法は2007年7月に施行された。資本金6億ルーブル以下のカジノ施設やゲーム賭博施設の営業が禁止された。2年後の2009年7月以降は、賭博ゾーン（賭博特区）以外での営業が禁止された。ゾーンはカリニングラード州、アルタイ地方、クラスノダル地方とロストフ州境界付近、沿海地方の4ヵ所に設置される。</p> | |
| コメント | |
| <p>○「ナーシ・ドーム」が開発会社に選定された背景には、国内外の投資家が集まらないため、沿海地方行政府が自らのプロジェクトとして取り組まなければならなくなったためとされる。</p> <p>○ロシア側は国内外の投資家を募っているが、2011年3月現在、投資家が応募したとの情報はない</p> | |

ウラジオストク国際映画スタジオの創設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ウラジオストク市ルースキー島に100haの映画スタジオを創設し、映画制作、国際映画祭や国際文化事業および教育・科学技術プログラムが可能となる施設を建設する。ヨットクラブ、ホテル、映画館、展示ホール、プレスセンター、アトラクションパーク、外食施設を含む。 |
| 実施期間 | 2009～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |

ウラジオストク総合スタジアムの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|---------------------------------------|
| プロジェクトの内容 | アイスホッケー等のウィンタースポーツ振興のためのアイスアリーナを建設する。 |
| 実施期間 | 2006～2010年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 2,400.0（8,000万ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |

沿海地方医療センターの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | 建物総面積62,363㎡、病棟ベッド数1,000床のハイテク医療センターを建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 5,000（1.7億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 未着工 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |
| コメント | |
| ○2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つであった「医療センター」は2010年1月、ルースキー島に建設中の極東連邦大学の医療センターと結び付けて建設することに決まったが、本件とは関係ない ○ルースキー島の「医療センター」優先のため、本件が近い将来に実現に向けて動き出す可能性はない | |

ウラジオストク外科・整形外科・人工関節施術医療センターの建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|---|
| プロジェクトの内容 | 敷地面積88,773㎡、建物面積7,791㎡、病棟ベッド数165床の外傷科・整形外科・人工関節施術医療センターを建設する。 |
| 実施期間 | 2008～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 3,000（1億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 未着工 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |
| コメント | |
| ○2013年までの極東・ザバイカル社会経済発展プログラムに規定されるプロジェクトの1つであった「医療センター」は2010年1月、ルースキー島に建設中の極東連邦大学の医療センターと結び付けて建設することに決まったが、本件とは関係ない ○ルースキー島の「医療センター」優先のため、本件が近い将来に実現に向けて動き出す可能性はない | |

軍勤務者向け住宅建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|---|
| プロジェクトの内容 | スネゴヴァヤ・パーチに全戸数16,000戸の軍人向け集合住宅、および保育園、学校、病院などを建設する。 |
| 実施期間 | 2009～2012年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 47,000（15.7億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 連邦国防省および沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| <input type="checkbox"/> 沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ <input type="checkbox"/> 日本の「会澤高压」が土手擁壁を受注 | |
| コメント | |
| <input type="checkbox"/> 日本企業が一部事業に参加できたプロジェクトの1つ | |

沿海地方国立公共図書館の建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|-------------|
| プロジェクトの内容 | 公共図書館を建設する。 |
| 実施期間 | 2009～2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方行政府 |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |

沿海地方

電力（火力）

ナホトカ熱供給発電所の建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | ナホトカ市とその隣接地区向けに電力、暖房、温水を供給する。沿海地方石油精製工場とコジミノ原油積出港施設へも供給する。 |
| 実施期間 | 2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 55,000.0（18.3億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 公開型株式会社RAO Energetichesky sistemy Vostoka（東部エネルギーシステムズ） |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |

沿海地方原子力発電所の建設

| プロジェクトの概要 | |
|--|--|
| プロジェクトの内容 | 原子炉ブロック2基を建設し、アルミニウム精製工場（計画中）と住民に電力を供給する。1号機は2019年、2号機は2020年に運転を開始する。出力1,000MW |
| 実施期間 | 2016～2020年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 36,000（12億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 国営公団ロスアトム（Rosatom） |
| プロジェクトの進捗状況 | |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |
| コメント | |
| ○リーマン・ショック前の好景気の中で浮上したプロジェクトであるが、リーマン・ショックとともに消えた。だがプロジェクトとしては生きている。 | |

高圧送電線の建設

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | 550kvの高圧送電線を敷設することにより、送電能力を高め、沿海地方南部への電力供給の安定化を図る。 ダリネボストーチナヤ～ウラジオストク間およびチュグエフカ～ロゾバヤ～ウラジオストク間 |
| 実施期間 | 2009～2011年 ダリネボストーチナヤ～ウラジオストク間：2009年 チュグエフカ～ロゾバヤ～ウラジオストク間：2011年 |
| 総事業費（100万ルーブル） | 14,650.0（4.9億ドル） |
| うち今後必要な投資額（100万ルーブル） | |
| 推進会社・団体（事業主体） | 公開型株式会社RAO Energetichesky sistemy Vostoka（東部エネルギーシステムズ） |
| プロジェクトの進捗状況 | 建設中 |
| 政府/地方自治体による支援 | |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） 住所 Tel/Fax e-mail | |
| 追加情報 | |
| ○沿海地方行政府が採択した「経済危機の下で沿海地方行政府が支援する優先投資プロジェクト」の1つ | |

ハサン地区他での廃棄物再利用

| プロジェクトの概要 | |
|---|--|
| プロジェクトの内容 | <p>沿海地方南西部のハサン地区、南部のナジェジンスキー地区、およびウスリースク地区において、廃棄物処理計画が策定中である。広大な面積に過疎の集落が連なる地域にも適した、RPF（固形廃棄物燃料）製造を前提とした小規模廃棄物再利用工場の導入が検討されている。</p> <p>各地域の人口規模、廃棄物排出量、廃棄物処理計画は次のとおり。</p> <p>①ハサン地区：人口3万8,000人。年間46万～47万t（4万7,000m²）生活ゴミ、5万5,000m²の公共廃棄物（集中暖房の石炭灰、浄水場廃棄物）、産業廃棄物6,000m²に適した、各集落平均住民1,000人規模程度のRPF（固形廃棄物燃料）製造プラント7機</p> <p>②ナジェジンスキー地区：ハサン地区と同等</p> <p>③ウスリースク地区：人口19万人 1ヵ所の集中処理施設建設</p> |
| 推進会社・団体（事業主体） | 沿海地方ハサン地区行政 ナジェジンスキー地区行政、ウスリースク地区行政 ベルクート社（Berkut） |
| 総事業費（100万ルーブル） | |
| プロジェクトの進捗状況 | この地域の有力企業であるベルクート社が、地区行政より提案書と見積書の提示要請を受けている。 |
| コンタクト先 | |
| 連絡先（組織・氏名） | ベルクート社（Berkut） |
| 住所 | Pokotilov, Viktor Anatolievich |
| Tel | Vladivostok, ul. Verkhne-Portovaya, 38, Office 212 |
| Fax | Tel (4232) 49-5648 |
| e-mail | Fax (4232) 49-5647 e-mail vicp04@yandex.ru |
| 追加情報 | |
| <p>○沿海地方南西部のハサン地区、南部のナジェジンスキー地区、ウスリースク地区は、国立自然保護公園に指定されるなど観光地区とされているにも関わらず、廃棄物処理は手つかずの状態、不法投棄が行われていたり、各家庭での処理に任されてきた。そこで、これら3つの地域に亘って有力企業であるベルクート社と協力して、廃棄物の再利用を前提とした廃棄物量削減への提言を行う。具体的には、広大な面積に過疎の集落が連なる地域にも適した、RPF（固形廃棄物燃料）製造を前提とした小規模廃棄物再利用工場の導入についての提言を行う。ベルクート社と協力して、廃棄物の再利用を前提とした廃棄物量削減への提言を行う。</p> <p>○2011年のできるだけ早い時期に、日本の関心を示す事業者を募って、再度、沿海地方を訪問し、実地において見聞し、提案活動を行っていく。</p> | |